

# 《建設政策》関西交流ニュース

## 2020年3月 No.230



### 発行：NPO建設政策研究所 関西支所

〒540-0035 大阪市中央区錦町1丁目1-1・AKレジデンス 501号室  
 (tel)06-6941-6058 (fax)06-6941-6115 (E-mail) nre28145 @ nifty.com  
 郵便振替 00950-0-117703 / 近畿労働金庫大阪中央支店・普通 5210780  
 /口座名：建設政策研究所関西支所  
 (関西支所ホームページ) <http://hd829716.life.coocan.jp>  
 関西交流ニュース：定価250円(送料別)〈年間個人会費に含〉

MO・KU・JI

#### 【情報と交流】

★創造的復興を検証する異なる視点  
 認識の違いは未来の道筋を見誤る！

#### 【建設研究(話題、課題、投稿etc)】

★台風19号災害からこれからの課題を考える

#### 【おすすめの一冊/お知らせ】

★「天上の葦」

### 情報と交流

## 創造的復興を検証する異なる視点 認識の違いは未来の道筋を見誤る！

阪神淡路大震災から四半世紀がたった今年、神戸では「創造的復興」を検証または総括する二つのシンポが開催されました。

一つは2月4日(火)の朝日新聞・ひょうご震災記念21世紀研究機構主催、神戸新聞共催のシンポ。二つは2月24日(日・祝)、市民目線で神戸市政を考える懇談会(「ストップ!神戸空港」の会・改め)主催、神戸・市民要求を実現する会共催の集会です。

前者は、「創造的復興はどこまで成し遂げられたのか、その経験や教訓はその後の災害の復旧



次なる災害に備え、創造的復興をテーマに意見を交わすパネリストら = 4日午後、神戸市中央区東川崎町1、神戸新聞松方ホール(撮影・吉田教史)

・復興にどう生かされたのか・・・」として、主催者のほかに井戸知事までが挨拶に登壇しました。

齋藤元兵庫県知事の、行政の視点から大震災の教訓と、「常時防災時代」への12の提言がされました。室崎教授からは、生活復興の視点からの課題と、プラス面、マイナス面の教訓を紹介する二者の基調講演がありました。

引き続きパネルディスカッションは、4名のパネリストと御厨機構副理事長(東大名誉教授)によるものでした。神戸住まいまちづくり公社からは、復興まちづくりをふりかえり、神戸都心の将来像をバラ色に強調。NPO法人コミュ・サボ神戸からは、NPOが意思決定の外に置かれていると“告発”。日弁連弁護士は、次なる大規模災害を見据えて、弁護活動と支援法の充実を強調、神戸新聞社報道部デスクは、震災後の報道の変遷を紹介され、後半の二人は社会的役割

を提起されました。

総括発言は、五百旗頭機構理事長、今村東北大学教授、角谷朝日新聞大阪版編集長という豪華な顔ぶれでした。

私自身の関心事として、神戸空港の是非を問う住民投票条例案が否決された経過を踏まえると、神戸空港をめぐる問題は避けて通れない「検証」課題だと思いましたが、一切触れられない内容で、失望を覚えました。

後者の集会は、「神戸空港 運営権売却・その後」と題して、北岡事務局長が報告。『借金を引き続き神戸市が返済』として、空港のランニング収支は黒字だが港湾事業会計（企業会計「2017年度までは「空港整備特別会計」が赤字となり、毎年2億円余りを市税から持ち出し。一方で、売却を受けた『関西エアポート神戸は「ウハウハ」ボロもうけ』の理由に、空港発着の時間帯や行き先の規制緩和を挙げます。行き着くところ、『神戸市長・公的責任放棄』として、空港を設置・管理者でありながら、関空・伊丹・神戸の「航空会社と運営者の関西エアポートが話し合いを」の発言を挙げています。他方、『売れない空港島 借金は踏み倒し』として、企業への売却は200億円足らずで、560億円は空港関連用地であると解明しました。他方、未売却用地は約1000億円と試算しました。

引き続き、森本市議員から新長田再開発事業の検証報告がされました。その中の従業者数は、神戸市の投資事業評価では「震災前の7.1割」でしたが、前者のシンポでは新長田合同庁舎の予想従業者数を盛り込んで『にぎわい戻る』と評価している“粉飾”点を見つけました。

二部のシンポジウムでは、「考えよう、住民本位のまちづくり」と題して、神戸市が提唱する“リノベーション・神戸（第2弾）～見違える



▲地下鉄名谷駅周辺整備イメージ

ような神戸へ”の対象となっている、市営地下鉄「名谷駅」「西神中央」、JR・山陽「垂水駅」周辺の住民から、問題と課題が報告されました。

現在神戸市は、人口減少の対策に躍起になっていますが、ただでさえ足りない学校校舎や育児への個人負担に対して、隣の明石市は学校給食や授業料の免除など、神戸市と比べものにならず、若い夫婦が流出し、人口が減少するには自明です。

やはり、「誰のために」「どこに向かって」総括するのか？視点を誤ると未来への道筋を見誤ると、つくづく思い知った対照的な集会でした。

…（関西支所事務局長 荒木孝朋）



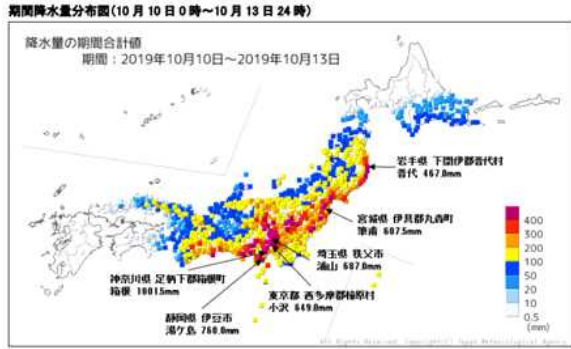
## 建設研究（話題・課題・投稿etc）

### 台風19号災害からこれからの課題を考える

建設政策研究所 関西支所  
副理事長 日朝洋明

#### 1. 広範囲にわたる甚大な被害

2019年10月10日～13日にかけて台風19号は近畿から東北の広範囲に雨を降らせた。特に関東から東北にかけての降水量は非常に多く、箱根では3日間の累加降水量が1,000mmを越えた。被害は、7県71河川140箇所で堤防が決壊、16都県301河川が氾濫するという状況に至り、死者は13都県で99人（災害関連死含む）、行方不明者3人、ピーク時避難者約24万人。住宅の全半壊は17都県32,036棟、一部損壊31都道府県31,735棟、床上浸水18都県7,776棟、床下浸水20都県22,592棟（消防庁1月10日現在）と、台風被害として極めて甚大なものとなった。ちょうど1ヶ月前の9月9日に千葉



▲気象庁HPより

県を中心に甚大な被害をもたらした台風15号に続く形での被災に、関東地方は大打撃を受けた。

## 2. 被害の特徴

### 1) 堤防決壊、8割が合流部

台風19号は140もの箇所では堤防を決壊させた。全体の約8割が河川と河川の合流部付近での決壊で、「バックウォーター現象」によるものが多い。長時間の降雨により流域全体から流れ込む洪水が一気に本川に集中するため、流れきらない分が支川にバックする現象であり一昨年の西日本豪雨災害でも問題となっていた。写真は宮城県丸森町の状況で、阿武隈川本川の国の管理区間は持ちこたえたが、合流点から上流の県の管理区間の3つの支川で18箇所も堤防が決壊している。

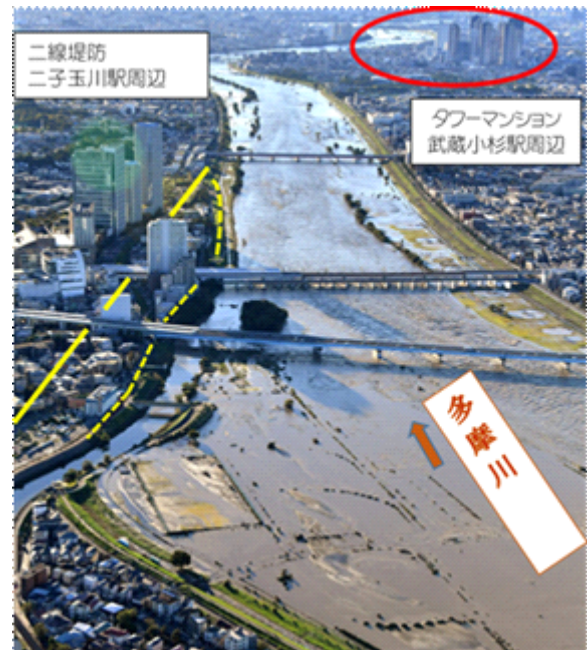


▲阿武隈川合流部上流県管理決壊箇所 (国交省HP)

### 2) 都市部での溢水(いっすい)被害

多摩川左岸の二子玉川駅(東京都世田谷区)付近の二線堤防部分で溢水被害が生じた。周辺は風光明媚な場所で、昔は料亭や宿屋があり、

約100年前、目の前に堤防が築かれるのを嫌って写真の黄色実線部に堤防が築かれた。近年、住居が多くなり地元合意を得ながら黄色点線部に築堤工事を進めているところであったが、今回、上流部の築堤未施工部において溢水氾濫し、マンション地下階のクリニックが浸水被害を受けた。



↑ 仮置きされた大型土のう



被災した地下クリニック

### 3) 都市部での内水被害

#### (タワーマンションでの水害)

多摩川右岸の武蔵小杉駅(神奈川県川崎市)付近では多摩川へ雨水を流す配水管が逆流し、駅周辺110haが浸水した。川崎市は樋門ゲート操作に関して謝罪を行っている。この周辺はタワーマンションが多いが、今回、写真のような地下駐車場出入口からの浸水によって電気設備が停止し、エレベーターが10日間使えなくなるなどの被害があった。マンション住民は市に対して恒久的な浸水対策を求めている。

#### 4) 浸水想定区域内で浸水被害

##### (新幹線車両センターが浸水)

千曲川の決壊により北陸新幹線長野新幹線車両センターが浸水し、車両120両が水没した。現在のハザードマップでは10m以上の浸水区域となっているが、1997年建設当時は過去の洪水実績資料を検討し、盛土は2mで行っていた模様だ。過去の被害を考慮しての対応は行われていたものの、新たに公表されたハザードマップを活用した防災対策は検討されていなかった。



浸水した車両基地に並ぶ北陸新幹線の車両=13日午前9時17分、長野市基町で、本社ヘリ「おつづる」から

↑北陸新幹線長野車両センターの水没



↑ハザードマップと車両センターの関係

### 3. これからの課題

今回示した被害の特徴を踏まえ、これからの課題を次のように整理する。

#### 1) 堤防補強工事を急ぐ

台風19号ではバックウォーター現象による河川合流部の上流部での堤防決壊等の被害が多かった。土で築造される堤防は長時間満水状態が続くと弱くなるため、合流部上流付近では堤防の補強工事を急ぐ必要がある。今回、越流した

洪水が堤防の裏側の法面を浸食したことによる決壊が多かったことから、越流が想定される区間には3面張り(表裏全面護岸+堤防天端舗装)による補強工事を実施する必要がある。特に自治体の管理区間においては財政支援も含めた対策が必要である。

#### 2) 土地利用は地域住民と考える

都市部は人口が密集しており用地買収を伴う築堤工事は買収対象者が多く簡単には進まない。まずはハザードマップ(浸水想定区域図)などを周知し、地元住民の協力により地域全体で無堤地区の解消や土地利用方法について考える必要がある。また、集合住宅などの耐水対策(電気施設の嵩上げ等も含めて)が必要であり、公的助成なども検討していく必要がある。

#### 3) ハザードマップ(浸水想定区域図)を活用した防災訓練の実施

自治体がハザードマップを公表していても、周知不足から日常的に意識している住民は多くない。地域の防災訓練や防災対策にフルに活用し、課題を事前に解消しておく必要がある。

#### 4) 防災体制の検証

今回の台風19号では、国管理の河川においても氾濫発生後すぐに「氾濫発生情報」が出せなかった。同時多発的に複数箇所が氾濫したために確認や対応が遅れたようで、いざというときに機能できる組織や人員の整備を含め、あらためて国や自治体の防災体制の検証が必要である。

#### 5) 水位情報・避難情報

水位周知未指定河川がまだまだ多い。気象庁の「危険度分布」を活用する動きも広がってきており、避難行動に役立つ情報機器の整備は早期に必要である。

#### 6) 洪水被害に強い住宅へ誘導

浸水しても生活の復旧が早く行えるよう住宅の嵩上げや居住空間の上方への移動に対する改修補助金なども検討していく必要がある。

#### 7) ダムの放流について

既存ダムを最大限活用するために事前放流の必要性が議論されているが、既存のダムを活用

して治水対策を行うには、ダムの放流ルールや利水ダムの治水活用に関する合意・調整が必要となる。まずは行政と住民との情報共有と対話が急がれる。

### 《最後に》

台風19号災害は極めて広範囲で、未だに収束したとは言えない。被災地域があまりに広範囲

なためにボランティア活動もままならない状況である。被災者の暮らし、生活の本格的な復旧のためには「自助・共助」には限界があり、一層の国や自治体の「公助」が必要だ。防災は災害時の教訓の積み重ねであり、再び繰り返さないための対策づくり、災害に強いまちづくりを進めるためには住民と行政が経験と教訓を持ち寄り、一緒に考えていくことが大切だと思う。

### 【おすすめの一冊】

## 「<sup>あし</sup>天上の葦」(上・下)

太田 愛 (角川文庫21899)

この本との出会いは、昨年12月の総会における宮本さんも講演がきっかけである。河川行政の「ゆがみ」により、豪雨によって沿川の住民の命が奪われた。

国は「無防備な国民の命を守らない」。同様の類例が、遡る大戦の敗戦間際、大都市・東京からの疎開を阻まれ、未就学の幼少児を中心としたおびただしい無辜の国民が犠牲になった、と説明。その挿絵に標題の本が紹介されていた。

講演の感動と同様に「読んでみたい」気持ちに押され購入し、上下巻あわせて約千頁を一気に読み切り、久しぶりに感動を受けた。著者太田愛氏は、人気犯罪ドラマ「相棒」のほか、興信所所長 鐘水ゆりみずと同所の捜査員繁藤、刑事の相馬のトリオによるシリーズ三作目になるサスペンス・ミステリ巨編とのことで、ノンフィクションではない。しかし、参考文献はノンフィクションに劣らないたくさんの書籍等から史実を忠実に再現したことに驚きを禁じ得ない。

大筋は、渋谷のスクランブル交差点の真ん中で老人が天を指して絶命シーンからはじまり、そのダイニング・メッセージの意味を探るミステリー。鐘水に2週間の期限で調査依頼が舞い込む。時を同じくして、一人の公安警察官が忽然と姿を消し、二つの事件の先に、社会を一変させる犯罪が仕組まれていた、というもの。調査を進めるうちに、鐘水興信所と相馬刑事を取りく周りで思いもよらない形で大きな歯車が回り始める。

巡りめぐって、瀬戸内海の小島の穏やかな営みの裏に隠された巧妙なトリックを暴いたとき、あまりに痛ましい真実の扉が開かれる。圧巻は、大本営発表の流布と特高警察が闊歩する下、「小さな火」は大きな火となり、監視と密告社会がはびこり真実は闇に葬られ、人々は軍需工場を守るため疎開も許されず、東京大空襲の犠牲にされた真実。

太田氏は、本書を書いた動機について、監視国家や「共謀罪」法の恐怖を先見し、「このところ急に世の中の空気が変わってきた。特にメディアが政権党寄りに・・・」、報道は政府に殺されるのではなく、自ら忖度し、権力の意向を「察して動く」うちに死ぬのだと、本書は語る。

「天上の葦」と言う書名の由来は・・・。

この紹介記事を書いている傍ら、2月2日投開票の京都市長選挙最中の1月26日、京都新聞が「大切な京都に共産党の市長は『NO』」の記事と、著名人の承諾なく顔写真を掲載したとか。21世紀の今日、ドイツのアウシュビッツ(排外主義)を思いこさせるとともに、本書が憂慮したメディアの自殺と民主主義否定を示唆したことが、残念ながら裏打ちされた。

by : A生

